



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	中国と旧ソ連・ロシアとの新しい経済関係
Author(s)	小川, 和男; Ogawa, Kazuo
Citation	スラヴ研究, 41, 59-76
Issue Date	1994
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/5220
Type	departmental bulletin paper
File Information	KJ00000113369.pdf



中国と旧ソ連・ロシアとの 新しい経済関係

小川和男

1. 中ソ経済関係の変遷

はじめに、中ソ経済関係の歴史を簡単に振り返ってみる。中ソの経済関係は、中華人民共和国が成立（1949年）した後の1950年代のいわゆる「蜜月時代」に著しく発展し、緊密化した。中ソ貿易額は1950年には往復5億2,000万ルーブルであったのが、1959年には18億5,000万ルーブル（当時の為替レートで約20億ドル）へと拡大し、ピークに達した。

当時、中ソ貿易は中国の対外貿易全体の50%前後を占め、ソ連の経済・技術援助と機械・設備供給は中国の初期工業化において決定的役割を果たした。ソ連にとっても、中国は最大の貿易相手国であり、1959年にはソ連の対外貿易全体の約20%が中国との貿易であった。

しかし、1960年代に中ソの政治的対立が激化すると、中ソ貿易は劇的に減少し、1970年にはわずか4,190万ルーブルに縮小した。これはピーク時に比べ40分の1という激減であり、ソ連の対外貿易全体の0.2%、中国のその約1%を占めたにすぎない。

1970年代に中ソ貿易は若干の回復をみせ、年間往復2～3億ルーブルで推移し、1980年代初めまで続いた（第1表参照）。また、政治的対立にもかかわらず、年次貿易議定書の締結が定例化した。

1982年以後、中ソ貿易は文字通り急増し、1982年が対前年比26.4%増、1983年が2.2倍、1984年が2倍、1985年が65.2%増、1986年が12.8%増と伸び、1983～1986年の4年間に8.4倍となった。

こうして、中ソ政治関係が好転し、正常化へ動くのに先立って、相互の経済関係が急速に改善され、貿易が激増したわけであり、1985年には1986～1990年の5年間に貿易倍増を見込む中ソ貿易・支払協定と中国における工業施設の新設（7件）と再建（17件）に関する経済・技術協力協定が締結された。新貿易・支払協定は、1960年代初期に中ソ対立が表面化して以来両国間で初めて結ばれた長期協定であり、しかも、中ソ友好同盟相互援助条約が1980年に期限切れとなって失効し、両国間に長期的協定が存在しなかった状況に終止符を打った。したがって、その意義は、経済・貿易の分野にとどまらず、広く中ソ関係の安定化に寄与するものとして高く評価された。

ゴルバチョフ前ソ連共産党書記長の歴史的北京訪問（1989年5月）と中ソ頂上会談の成功によって、中ソ関係は完全に正常化した。1990年4月には李鵬中国首相がモスクワを訪問した。李鵬首相の訪ソ中、中ソ間では期間10年（1991～2000年）の経済・科学技術協力協定が調印された。こうした環境改善により、中ソ経済交流がさらに活発化すると期待された。

(第1表) 旧ソ連と中国の貿易の発展推移
(1960～1990年)

～旧ソ連の貿易統計による～

(単位 100万ルーブル)

	総額	ソ連の輸出	ソ連の輸入	バランス
1960	1,498.7	735.4	763.3	▲ 27.9
1961	826.9	330.6	496.3	▲165.7
1962	674.8	210.1	464.7	▲254.6
1963	540.2	168.5	371.7	▲203.2
1964	4404.6	121.8	282.8	▲161.1
1965	375.5	172.5	203.0	▲ 30.5
1966	286.6	157.8	128.8	29.0
1967	96.3	45.3	51.0	▲ 5.7
1968	86.4	53.4	33.0	20.4
1969	51.1	25.0	26.1	▲ 1.1
1970	41.9	22.4	19.5	2.9
1971	138.7	70.1	68.6	1.5
1972	210.6	100.2	110.4	▲ 10.2
1973	201.3	100.5	100.8	▲ 0.3
1974	213.9	108.4	105.5	2.9
1975	200.9	93.1	107.8	▲ 14.7
1976	314.4	179.8	134.6	45.2
1977	248.5	118.4	130.1	▲ 11.7
1978	338.7	163.8	174.9	▲ 11.1
1979	332.5	175.2	157.3	17.9
1980	286.6	139.6	147.0	▲ 7.4
1981	176.8	82.6	94.2	▲ 11.6
1982	223.5	120.1	103.4	16.7
1983	488.2	255.6	232.6	23.0
1984	977.8	467.9	509.9	▲ 42.0
1985	1,614.9	780.4	834.5	▲ 54.1
1986	1,822.0	910.3	911.7	▲ 1.4
1987	1,471.9	724.3	750.6	▲ 26.3
1988	1,850.1	1,005.2	844.9	160.3
1989	2,412.0	1,328.5	1,083.5	245.0
1990	2,038.0	1,377.7	1,660.3	▲282.6

(出所) 『1959～1963年のソ連外国貿易統計集』(1965年), 『ソ連外国貿易統計集』
(各年度版) によって作成。

2. 1988～1992年の中ソ貿易急増

中国と旧ソ連・ロシアとの貿易が文字通り急速に拡大しており、注目される。中国側の貿易統計によって近年の急増ぶりをみると、1988年に往復約29億ドルであった両国間貿易額は、1990年には約39億ドルとなり、1992年にはさらに飛躍して約66億ドルとなった（第2表参照）。1992年のこの貿易額のうち約59億ドルが中国とロシアとの貿易額であり、88%を占めている。1992年の日本とロシアとの貿易額は往復約35億ドルにとどまったから、中ロ貿易額は日ロ貿易額を24億ドルも上回ったことになる。1993年の中ロ貿易額はさらに伸びて約72億ドルとなった。

中国と旧ソ連・ロシアとの貿易の急増にともなって、中国とロシアの双方にとって相互経済・貿易関係の重要性が高まっている。中国の対外貿易は、高度経済成長を背景に大幅に伸び、1988年に史上初めて1,000億ドル台の大台に乗せた後、1992年には1,656億ドルに拡大した。中国のこのような対外貿易急増のなかで、旧ソ連との貿易のシェアが上昇し続け、中国にとっての重要性が高まっているのである。

（第2表） 中国の対外貿易と対旧ソ連貿易
（1988～1992年）

（単位 1,000万ドル）

	1988	1989	1990	1991	1992
中国の輸出	4,754.0	5,248.6	6,206.3	7,191.0	8,499.8
中国の輸入	5,525.1	5,914.2	5,335.0	6,379.1	8,061.0
総額	10,279.1	11,162.8	11,541.3	13,570.1	16,560.8
うち;					
対旧ソ連輸出 （シェア）	149.5 (3.14%)	184.9 (3.52%)	223.9 (3.61%)	182.3 (2.54%)	274.4 (3.23%)
対旧ソ連輸入 （シェア）	140.6 (2.53%)	214.7 (3.63%)	214.0 (4.01%)	208.1 (3.26%)	391.7 (4.86%)
対旧ソ連貿易合計 （シェア）	290.1 (2.82%)	399.6 (3.58%)	437.9 (3.79%)	390.4 (2.88%)	661.1 (3.99%)

（注） シェアは中国の輸出総額、輸入総額および貿易総額に占めるシェア。

（出所） 日本貿易振興会『中国対外貿易統計』（各年版）によって作成。原出所は、中国『海関統計』。

すなわち、1988年についてみると、中国の対外貿易全体のなかで、対ソ輸出の占めるシェアは3.14%、対ソ輸入のそれは2.53%であったが、1992年についてみると、対旧ソ連輸出のシェアは3.23%、対旧ソ連輸入のそれは4.86%と高まっており、とりわけ輸入シェアの上昇が顕著である。

中国の貿易相手国としても、旧ソ連・ロシアは近年重要な地歩を占め、香港、日本および米国の三国にははるかに及ばないものの、1992年についてはドイツおよび台湾を若干凌ぎ、世界各国のなかで第4位を占めたほどである（第3表参照）。

（第3表） 中国の主要貿易相手国
（1992年）

（単位 1,000万ドル）

国	貿易総額	対前年 比増減 率(%)	中国の輸出	対前年 比増減 率(%)	中国の輸入	対前年 比増減 率(%)
総額	16,560.8	22.0	8,499.8	18.3	8,061.0	26.3
うち；						
香港	5,805.0	17.0	3,751.2	16.7	2,053.8	17.6
日本	2,538.0	25.1	1,169.9	14.4	1,368.1	36.3
米国	1,749.4	23.2	859.4	39.5	890.0	11.1
旧ソ連	661.1	69.3	274.4	50.5	391.7	88.2
うち；ロシア	586.2	—	233.6	—	352.6	—
台湾	657.9	55.4	69.8	17.3	588.1	61.6
ドイツ	647.1	19.7	244.8	3.9	402.3	31.9
韓国	506.0	56.0	243.7	11.8	262.3	146.0
シンガポール	326.7	6.2	203.1	0.8	123.6	16.3
イタリア	284.3	19.0	109.5	17.5	174.8	19.8
カナダ	258.0	17.2	65.3	17.6	192.7	17.0
オーストラリア	233.2	10.5	66.1	19.2	167.1	7.3
フランス	226.0	-1.9	76.4	4.1	149.6	-4.7
インドネシア	202.5	7.5	47.1	-2.0	155.4	10.7

（出所） 第2表に同じ。

旧ソ連・ロシア側にとってはどうか。ソ連邦解体とその前のコメコン崩壊を背景に、周知の通り、旧ソ連・ロシアの対外貿易は劇的に減少した。コメコン域内貿易は1991～1992年に激減、東欧諸国からロシアへの輸出は2年間に70%以上も減少し、ロシアからの輸入も60%減と大幅に減少したとみられている¹⁾。

旧ソ連・ロシアと先進工業諸国および発展途上諸国との貿易も近年総じて不振をきわめ、主要取引相手国との輸出入が激減した。先進工業諸国との貿易がとりわけ不振であり、輸出入金額と数量の両方が縮小した（第4表参照）。

旧ソ連・ロシアの以上のような対外貿易不振のなかで、中国との貿易の急速な発展は例外的に突出した事象であり、これまでの取引の大部分が外貨を必要としないバーター取引であったことや商品構造が基本的に相互補完的であったことことから、旧ソ連・ロシアと中国の双方にとって利益が大きい。

中国と旧ソ連・ロシアとの貿易では、後述の通り、国境貿易（辺境貿易）がきわめて大きなシェアを占めている。この点を考慮に入れると、中国の東北三省、とりわけ黒竜江省、内モンゴル、新疆ウイグル自治区、ロシアの極東地方にとってもつ相互貿易の意味は非常に大きく、今後、重要性がいっそう高まるとみられる。

（第4表） 旧ソ連・ロシアの対外貿易動向
（1990～1992年）

地域・国 ²⁾	輸出金額 (10億ドル)	輸出(対前年比増減率) ¹⁾ (%)			輸入金額 (10億ドル)	輸入(対前年比増減率) ¹⁾ (%)		
	1991	1990	1991	1992 ³⁾	1991	1990	1991	1992 ³⁾
旧ソ連・ロシア ⁵⁾								
全世界	46.7	▲5.2	▲24.6	▲34.5	45.5	—	▲35.9	▲17.3
旧中央計画化経済諸国	14.0	▲24.3	▲35.0	▲35.7	14.3	▲10.6	▲43.4	▲46.4
東欧 ⁴⁾	9.2	▲26.9	▲40.8	▲38.6 ⁶⁾	8.8	▲12.1	▲51.6	▲54.5 ⁷⁾
先進諸国	26.4	12.3	▲16.2	▲34.3	26.4	5.6	▲31.0	▲4.5
発展途上諸国	6.3	▲9.5	▲29.0	▲32.7	4.7	3.8	▲35.8	10.6

（注） 1）ドル表示の輸出入金額の増減率。

2）東欧にはアルバニア、ブルガリア、チェコスロバキア、ハンガリー、ポーランド、ルーマニアおよびユーゴスラビアが含まれる。旧中央計画化経済諸国には、旧ソ連・東欧のほか、アジアの中央計画化経済諸国とキューバを含む。

3）1991年1～6月から1992年1～6月。

4）アルバニアとユーゴスラビアを含まない。

5）1992年についてはロシアの数字。

6）旧コメコン諸国（キューバ、モンゴル、ベトナムを含む）との取引。

（出所） UN ECE, “Economic Bulletin for Europe,” Volume 44, New York, 1992.

3. 中国と旧ソ連・ロシアとの貿易の商品構造

～顕著な相互補完性～

中国と旧ソ連・ロシアとの貿易の商品構造は、きわめて相互補完的であり、貿易拡大の基本的ファクターになっている。相互補完性は1950年代の中ソ蜜月時代にも顕著であったし、近年における中ソ貿易激増のもとでも同様である（第5表および第6表参照）。

中国側は、旧ソ連・ロシアで需要の大きい食肉、大豆、とうもろこし、野菜などの食料品、衣料品やタオルなどの繊維製品、魔法ビン、運動靴などを供給しており、旧ソ連・ロシアの市民生活に密着した商品が多い（第6表参照）。

一方、旧ソ連・ロシア側は、中国にとって必要な鋼材や非鉄金属、化学肥料、セメント、木材などの中間材、一部の機械・設備、自動車や航空機・同部品などを供給している。旧ソ連は、1990年に中国に向けて、鋼材59万t、銑鉄75万t、乗用車2万900台、尿素肥料296万tなどを輸出したのであり、中国にとっては重要な輸入となっている。

近年、ロシア極東地方の消費財市場には中国製の衣料品や雑貨、缶詰などが溢れ、市場を席卷しているようにみえる。だが実際の中ロ貿易では、1991～1992年と2年続いてロシア側の黒字が記録され、とりわけ1992年のインバランスは大きかった（第3表参照）。ロシア製品が大量に中国に向けて供給されているわけである。

ソ連解体後、ロシアでは市場化が不退転の方向となり、軍民転換が必須の課題となっている。極東地方には大規模な軍需工場が集中しているが、軍民転換政策のもとで不用になった鋼材はじめ各種の資材を多量に抱えている。一方、建設ブームが続く中国では莫大な鋼材需要があり、中ロ間で新しいビジネス・チャンスが次々と誕生し、ロシアから中国に向けて大量の鋼材が流入するという関係が成立している。

中国には旧ソ連・ロシアの技術や機械に対する根強い不信があり、日本や欧米の製品に対する選好が強いといわれている。しかし実際には、1950年代の大量導入以来の慣れや低い価格のメリット、中国工業の現状では中間的技術水準の旧ソ連・ロシア製機械・設備で十分に利用可能であるという特殊事情もあって、旧ソ連・ロシア製機械や部品に対する評価がかなり高く、利用もなかり進んでいるのは、注目すべき事実である。また、中国の指導者層や技術者層の主流が現在なお旧ソ連留学組で占められていることも、旧ソ連・ロシア技術を身近なものにしている。

中国と旧ソ連・ロシアとの貿易のなかにみられる特殊な形式の一つに、主として中国東北三省からロシア極東地方への労働力輸出がある。これは、中国の労働者が極東地方で農作業や建築作業に従事しているもので、1988～1992年の5年間に延べ6万人が供給されたという⁽²⁾。1992年の労働輸出は約1万6,000人であった⁽³⁾。

ロシア側が中国側に対して、かなり多数の旅客機をパイロットをはじめ要員ごとリースし、手っ取り早く外貨を稼ぐというニュー・ビジネスも登場しており、相互の取引関係は著しく多様化している。

(第5表) 旧ソ連の中国向け主要輸出品
(旧ソ連の貿易統計による)

(単位 100万ルーブル)

	1959	1960	1970	1975	1980	1985	1989	1990
総額	859.10 (100.0)	735.40 (100.0)	22.40 (100.0)	92.80 (100.0)	169.60 (100.0)	780.4 (100.0)	1,328.5 (100.0)	1,377.7 (100.0)
機械・設備・輸送手段	537.77 (62.6)	453.53 (61.7)	13.58 (60.6)	69.62 (75.0)	98.45 (58.0)	246.1 (31.5)	438.1 (33.0)	580.6 (42.1)
工作機械・鍛造設備	5.95 (0.7)	3.02 (0.4)	1.26 (5.6)	0.28 (0.3)	0.26 (0.2)	—	—	—
発電設備	16.79 (2.0)	13.10 (1.8)	—	—	—	—	168.5 (12.7)	160.6 (11.7)
電気設備	5.21 (0.6)	5.08 (0.7)	—	—	—	8.0 (1.0)	2.3 (0.2)	6.0 (0.4)
荷揚・輸送設備	1.66 (0.2)	4.46 (0.6)	0.87 (3.9)	0.38 (0.4)	2.62 (1.5)	—	—	—
道路建設機械	3.62 (0.4)	5.06 (0.7)	—	—	—	—	—	—
ポンプ・圧縮設備	4.23 (0.5)	4.40 (0.6)	—	—	—	—	—	—
プラント	359.79 (41.9)	336.46 (45.8)	—	—	—	—	—	—
計器	6.75 (0.8)	6.73 (0.9)	—	—	—	—	0.9 (0.1)	0.8 (0.1)
農業機械	7.66 (0.9)	8.19 (1.1)	—	—	—	0.0	—	—
鉄道車両	67.86 (7.9)	4.89 (0.7)	—	—	—	—	120.6 (9.0)	132.2 (9.6)
自動車	30.87 (3.6)	40.42 (5.5)	—	—	—	—	—	—
トラック	22.83 (2.7)	32.48 (4.4)	0.39 (1.7)	9.88 (10.6)	35.94 (21.2)	65.0 (8.3)	8.5 (0.6)	23.6 (1.7)
トラック部品	—	—	—	3.80 (4.1)	1.93 (1.1)	5.1 (0.1)	5.9 (0.4)	6.5 (0.5)
船舶	4.25 (0.5)	2.87 (0.4)	—	—	—	—	—	—
航空機	—	—	4.33 (19.3)	28.42 (30.6)	37.76 (22.3)	70.9 (9.1)	58.9 (4.4)	104.7 (7.6)
乗用車・同部品	—	—	3.01 (13.4)	0.85 (0.9)	0.45 (0.3)	76.1 (9.8)	41.3 (3.1)	79.1 (5.7)
オートバイ	0.05 (0.0)	0.10 (0.0)	—	—	—	2.2 (0.0)	—	—
石油製品	93.59 (10.9)	90.86 (12.4)	—	—	—	—	34.6 (2.6)	21.1 (1.5)
鉄鉄	—	—	—	—	—	18.3 (2.3)	35.8 (2.7)	57.8 (4.2)
鋼材	26.45 (3.1)	33.43 (4.5)	2.46 (11.0)	4.48 (4.8)	5.77 (3.4)	158.9 (20.4)	184.1 (13.9)	127.8 (9.3)
鋼管	12.96 (1.5)	12.26 (1.7)	0.25 (1.1)	2.68 (2.9)	2.94 (1.7)	17.5 (2.2)	3.0 (0.2)	0.3 (0.0)
非鉄圧延材	3.12 (0.4)	4.89 (0.7)	—	—	—	—	—	—
化学製品	1.91 (0.2)	2.81 (0.4)	0.30 (1.3)	1.40 (1.5)	1.28 (0.8)	15.6 (2.0)	13.5 (1.0)	16.7 (1.2)
有機・無機酸の塩類	—	—	0.24 (1.1)	0.80 (0.9)	0.53 (0.3)	3.5 (0.4)	5.3 (0.4)	8.4 (0.6)
ソーダ灰	—	—	—	—	—	4.3 (0.6)	0.6 (0.0)	0.8 (0.1)
プラスチック	0.20 (0.0)	0.48 (0.1)	—	—	—	4.4 (0.6)	7.7 (0.6)	5.7 (0.4)
顆粒尿素	—	—	—	—	—	110.0 (14.1)	190.5 (14.3)	186.3 (13.5)
建設材料	0.76 (0.1)	1.43 (0.2)	—	—	—	—	—	—
セメント	—	—	—	—	—	1.6 (0.2)	1.0 (0.1)	2.4 (0.2)
板ガラス	0.12 (0.0)	0.07 (0.0)	—	—	—	5.8 (0.7)	1.7 (0.1)	0.4 (0.0)
挽材	—	—	—	4.30 (1.6)	14.20 (8.4)	83.0 (10.6)	81.4 (6.1)	60.6 (4.4)
生鮮・冷凍魚	—	—	—	—	—	—	4.1 (0.3)	22.9 (1.7)
日用文化品	4.92 (0.6)	3.62 (0.5)	0.19 (0.8)	0.30 (0.3)	9.08 (5.4)	8.8 (1.1)	12.3 (0.9)	15.9 (1.2)
冷蔵庫	—	—	—	—	—	7.2 (0.9)	8.7 (0.7)	8.3 (0.6)
印刷物	1.39 (0.2)	1.63 (0.2)	0.19 (0.8)	0.30 (0.3)	0.88 (0.5)	1.4 (0.2)	0.7 (0.1)	0.6 (0.0)

(注) カッコ内は構成比(%)を示す。
(出所) 『ソ連外国貿易統計集』(各年度版)によって作成。

(第6表) 旧ソ連の中国からの主要輸入商品
(旧ソ連の貿易統計による)

(単位 100万ルーブル)

	1959	1960	1970	1975	1980	1985	1989	1990
総額	990.30 (100.0)	763.30 (100.0)	19.50 (100.0)	107.80 (100.0)	147.00 (100.0)	834.5 (100.0)	1,083.5 (100.0)	1,660.3 (100.0)
蓄電池	—	—	—	—	—	—	20.7 (1.9)	21.3 (1.3)
ボールベアリング	—	—	—	—	—	—	27.1 (2.5)	50.4 (3.0)
鉱石及び金属精選鉱	65.98 (6.7)	55.06 (7.2)	—	—	—	—	—	—
非金属鉱物・粘土	—	—	—	—	7.76 (5.3)	18.7 (2.2)	—	—
非鉄金属及び合金	49.41 (5.0)	44.04 (5.0)	—	—	—	—	—	—
天然ゴム	16.28 (1.6)	6.41 (0.8)	—	—	—	—	—	—
建設資材	11.43 (1.2)	11.83 (1.5)	—	—	—	—	—	—
繊維原料及び半製品	82.45 (8.3)	58.75 (7.7)	—	—	—	—	—	—
綿花	47.09 (4.8)	30.45 (4.0)	—	—	—	16.2 (1.9)	29.0 (2.7)	36.9 (2.0)
羊毛	19.74 (2.0)	17.42 (2.3)	—	—	5.36	—	—	—
絹…粗製(天然)	—	—	—	—	36.22 (24.6)	22.3 (2.7)	16.6 (1.5)	32.6 (2.0)
タバコ(葉)	26.71 (2.7)	11.14 (1.5)	—	—	—	—	—	—
桐油	7.97 (0.8)	3.92 (0.5)	0.76 (3.9)	0.62 (0.6)	0.41 (0.3)	—	—	—
剛毛その他動物性原料	14.72 (1.5)	9.06 (1.2)	—	—	—	—	—	—
剛毛	10.38 (1.0)	5.72 (0.7)	—	8.31 (7.7)	5.36 (3.6)	14.2 (1.7)	12.0 (1.1)	19.7 (1.2)
とうもろこし	—	—	—	—	—	173.5 (20.8)	94.4 (8.7)	83.0 (5.0)
大豆	60.68 (6.1)	32.11 (4.2)	—	—	—	82.4 (9.9)	92.2 (8.5)	37.4 (2.3)
茶	17.50 (1.8)	11.68 (1.5)	—	—	5.08 (3.5)	20.3 (2.4)	42.2 (3.9)	79.8 (4.8)
肉類及び肉製品	37.89 (3.8)	16.67 (2.2)	—	—	—	150.7 (18.1)	164.5 (15.2)	265.5 (16.0)
野菜, 果物, 木の実	28.12 (2.8)	16.42 (2.2)	—	—	—	—	—	—
果物, いちご, 木の实	16.66 (1.7)	12.23 (1.6)	4.87 (25.0)	19.93 (18.5)	27.39 (18.6)	23.0 (2.8)	24.3 (2.2)	26.1 (1.6)
みかん	5.79 (0.6)	3.85 (0.5)	1.15 (5.9)	5.02 (4.7)	5.84 (4.0)	0.0 (0.0)	10.6 (1.0)	9.6 (0.6)
りんご	9.49 (1.0)	8.22 (1.1)	3.43 (17.6)	14.87 (13.8)	20.35 (13.8)	13.1 (1.6)	13.0 (1.2)	15.8 (1.0)
食塩	2.42 (0.2)	1.34 (0.2)	—	1.44 (1.3)	2.68 (1.8)	2.4 (0.3)	2.3 (0.2)	2.5 (0.2)
綿・毛織物その他	139.98 (14.1)	125.57 (16.5)	—	—	—	—	—	—
綿織物	45.06 (4.6)	31.97 (4.2)	—	—	—	52.4 (6.3)	15.0 (1.4)	28.6 (1.7)
絹化繊維物	37.02 (3.7)	29.06 (3.8)	0.59 (3.0)	8.50 (7.9)	7.57 (5.1)	29.8 (3.6)	26.9 (2.5)	64.5 (3.9)
衣服・下着	178.98 (18.1)	172.81 (22.6)	—	—	—	—	—	—
上衣, 下着類	76.48 (7.7)	79.31 (10.4)	6.02 (30.9)	10.90 (10.1)	15.78 (10.7)	33.3 (4.0)	69.0 (6.4)	150.4 (9.1)
ニット上下	47.26 (4.8)	54.16 (7.1)	3.08 (15.8)	19.63 (18.2)	5.74 (3.9)	31.7 (3.8)	20.2 (1.9)	58.4 (3.5)
タオル	24.24 (2.4)	16.46 (2.2)	—	1.89 (1.8)	2.07 (1.4)	22.4 (2.7)	66.2 (6.1)	95.3 (5.7)
毛布	—	—	—	—	0.73 (0.5)	2.9 (0.3)	8.1 (0.7)	12.3 (0.7)
小間物	9.95 (1.0)	0.19 (0.0)	—	—	—	—	—	—
皮靴	33.04 (3.3)	37.59 (4.9)	—	—	—	—	—	—
運動靴	—	—	1.13 (5.8)	3.48 (3.2)	2.20 (1.5)	13.7 (1.6)	24.3 (2.2)	50.6 (3.0)
家庭日用品	7.65 (0.8)	7.75 (1.0)	0.66 (3.4)	5.90 (5.5)	1.50 (1.0)	—	—	—
魔法びん	—	—	—	—	—	8.2 (1.0)	15.5 (1.4)	27.6 (1.7)
印刷物	0.92 (0.1)	0.70 (0.1)	0.01 (0.1)	0.01 (0.0)	0.01 (0.0)	0.1 (0.0)	0.4 (0.0)	1.8 (0.1)

(注) カッコ内は構成比(%)を示す。
(出所) 第5表に同じ。

(第7表) 中ソ貿易の主要取引品目(1990~1991年)
(中国側の貿易統計による)

S I T C	中国の輸出(万ドル)			中国の輸入(万ドル)		
	1990年	1991年	増減率(%)	1990年	1991年	増減率(%)
総 額	223,919	182,338	-18.6	213,992	208,087	-2.8
第0類 食料品及び動物	64,310	72,639	13	4,190	2,611	-37.8
00 動物(生きているもの、主として食用)	6	1,037	17,183.3	1	0	—
01 鳥獣肉類およびその調整品	38,851	47,925	23.4	13	17	30.8
02 酪農品及び鳥卵	1	148	14,700	219	229	4.6
03 魚介類およびその調整品	6	12	100	3,809	2,234	-41.3
04 穀物およびその調整品	11,332	10,167	-10.3	65	16	-75.4
05 野菜および果実	5,994	2,578	-57	0	7	—
06 糖類およびその調整品ならびにはちみつ	497	4,034	711.7	8	1	-87.5
07 コーヒー、茶、ココア、香辛料、同製品	7,561	6,390	-15.5	0	0	—
08 飼料(粉砕してない穀物を除く)	0	137	—	72	104	44.4
09 その他の食用の生産品および調整品	61	211	245.9	3	3	0
第1類 飲料およびたばこ	1,061	3,273	208.5	7	2	-85.7
11 飲料	319	595	86.5	7	1	-85.7
12 たばこ	742	2,678	260.9	0	0	—
第2類 食用に適さない原材料(鉱物性燃料を除く)	22,675	9,681	-57.3	17,990	9,696	-46.1
21 原皮および毛皮(仕上げをしていないもの)	10	5	-50	53	176	232.1
22 採油用の種、ナットおよび核	7,297	5,657	-22.5	1	51	5,000
23 生ゴム(合成ゴムおよび再生ゴムを含む)	0	0	—	197	768	289.8
24 コルクおよび木材	1	0	—	11,926	2,103	-82.4
25 パルプおよび紙	0	0	—	350	210	-40
26 織物用繊維およびそのくず	8,629	1,706	-80.2	1,187	2,318	95.3
27 肥料および粗の鉱物	2,326	1,777	-23.6	579	689	19
28 金属鉱および金属くず	2,231	353	-84.2	3,320	3,007	-9.4
29 その他動物性または植物性の原料	2,180	180	-91.7	376	368	-2.1
第3類 鉱物性燃料、潤滑油、これらに類するもの	1	189	18,800	3,685	9,456	156.6
32 石炭、コークスおよびれん炭	0	0	—	21	41	95.2
33 石油、石油製品および関連原料	1	189	18,800	3,664	9,414	156.9
34 天然ガスおよび製造ガス	0	0	—	0	1	—
35 電力	0	0	—	0	0	—
第4類 動物性または植物性の油脂とろう	0	88	—	66	11	-83.3
41 動物性油脂	0	9	—	64	11	-82.8
42 植物性油脂	0	80	—	0	0	—
43 動物性または植物性の加工油脂およびろう	0	0	—	2	0	—
第5類 化学工業生産品	6,559	7,354	12.2	68,486	87,765	28.2
51 有機化合物	1,005	974	-3.1	892	1,982	122.2
52 無機化合物	1,002	1,642	63.9	1,544	2,295	48.6
53 染料、なめし剤、顔料、塗料および充てん剤	829	1,073	29.4	7	1	-85.7
54 医薬品	304	773	154.3	4	5	25
55 精油、香料、化粧品、洗剤およびみがき料	3,381	613	-81.9	31	34	9.7
56 肥料	0	0	—	65,035	82,855	27.4
57 火柴類	0	0	—	0	0	—
58 人造プラスチック	17	217	1,176.5	729	382	-47.6
59 その他の化学工業生産品	21	2,061	9,714.3	244	211	-13.5

S I T C	中国の輸出 (万ドル)			中国の輸入 (万ドル)		
	1990年	1991年	増減率(%)	1990年	1991年	増減率(%)
第6類 原料別製品	34,089	19,178	-43.7	49,239	26,284	-46.6
61 革, 革製品および仕上げされた毛皮	41	69	68.3	267	27	-89.9
62 ゴム製品	241	488	102.5	270	120	-55.6
63 コルク製品および木製品(家具を除く)	129	64	-50.4	4	4	0
64 紙, 板紙およびこれらの製品	809	687	-15.1	141	39	-72.3
65 織物用繊維の糸, 織物および繊維製品	28,939	14,530	-49.8	263	87	-66.9
66 その他の非金属鉱物製品	2,485	2,578	3.7	302	144	-52.3
67 鉄鋼	163	63	-61.3	36,064	15,181	-57.9
68 非鉄金属	3	46	1,433.3	9,153	9,563	4.5
69 その他の金属製品	1,279	652	-49	2,774	1,119	-59.7
第7類 機械及び輸送用機械	29,737	18,417	-38.1	67,426	65,373	-3
71 原動機および部品	285	274	-3.9	18,534	21,264	.7
72 特定産業用機械	5,280	4,619	-12.5	3,269	10,231	213
73 金属加工機械	2,526	719	-71.5	1,919	1,151	-40
74 一般産業用機器とその部品	6,735	2,689	-60.1	2,392	475	-80.1
75 事務用機器と自動式データ処理機	3,957	690	-82.6	0	0	-
76 通信機器, 包装受信機, 音声録音, 再生機器	4,684	4,237	-9.5	13	1	-92.3
77 他の電気機器	3,722	3,390	-8.9	3,051	2,037	-33.2
78 道路走行車輛	2,073	1,031	-37.2	9,788	11,942	22
79 その他の輸送用機器	475	498	4.8	28,459	18,272	-35.8
第8類 雑製品	64,354	50,794	-21.1	1,113	483	-56.6
81 室内衛生用品, 暖房器具および照明器具	276	345	25	10	39	290
82 家具	688	357	-48.1	79	53	-32.9
83 旅行用具	460	155	-66.3	8	1	-87.5
84 衣類およびその付属品	44,219	38,046	-14	250	65	-74
85 はき物	8,966	6,832	-28.8	17	2	-88.2
87 光学機器類, 医療用機器, 精密機器類	1,048	1,014	-3.2	54	57	5.6
88 写真用の装置および機器, 光学用機器, 時計	271	268	-1.1	46	10	-78.3
89 その他の雑製品	8,426	4,227	-49.8	650	255	-60.8
第9類 特殊取扱品	1,133	725	-36	1,789	6,415	258.6

(出所) 第2表に同じ。

4. 中国と旧ソ連・ロシアとの合併事業

中国と旧ソ連・ロシアとの間でも合併事業の進展がみられている。中国側の旧ソ連・ロシアへの進出がかなり活発であるのに対して、ロシア側からの対中国直接投資は緒についたばかりである。

ロシア国内における合併企業数は、1993年7月1日現在、9,125件を数えているが、中国との合併企業数はこのうち347件であり、総数の3.8%を占め、健闘している(第8表参照)。日本との合併企業数は173件(1.9%)であるから、件数にして2倍ということになる。

中ロの合併企業は、ロシア極東地方、なかでも沿海地方、アムール州およびハバロフスク

地方に集中している。極東地方では1992年末現在、916件の合弁企業が登録されている⁽⁴⁾。このうち、中国との合弁企業は278件を数え、総数の30.3%を占めている。国別合弁企業数では米国と日本を凌ぎ、首位を占めている。しかし、中国系合弁企業は小規模なものが大多数であり、国別にみた投資金額では、米国や日本の方が大きい。

中国系合弁企業278件のうち、119件が沿海地方に、42件がナホトカ自由経済地域に、73件がハバロフスク地方に、36件がアムール州に立地しているが、沿海地方では合弁企業総数の32.5%、ハバロフスク地方では35.3%、アムール州では73.5%を占めている。

極東地方の中国系合弁企業は、主として、極東地方の天然資源と中国製消費物資との交換取引を行っており、大きな利益をあげている。1992年初以降、極東地方では小規模な中国系合弁企業の設立が急増している。

(第8表) ロシア国内の国別合弁企業数
(1993年7月1日現在)

国	合弁企業登録件数	シェア(%)
総数	9,125	100
うち;		
アメリカ	1,433	15.7
ドイツ	1,141	12.5
イギリス	557	6.1
イタリア	511	5.6
オーストリア	475	5.2
ポーランド	438	4.8
フィンランド	429	4.7
中国	347	3.8
スイス	319	3.5
フランス	283	3.1
スウェーデン	238	2.6
ブルガリア	237	2.6
カナダ	209	2.3
日本	173	1.9
ハンガリー	164	1.8

(出所) “Finansoviye Izvestiya” (1993.7. 16)。

5. 国境貿易の急増と地域間経済交流の活発化

中国東北三省(黒竜江省、吉林省および遼寧省)とロシア極東地方との間、あるいは新疆ウイグル自治区とカザフスタンとの間におけるこれまでは主として消費物資のバーター取引である国境貿易(辺境貿易)の拡大はまことにめざましく、中国と旧ソ連・ロシアとの貿易全体の発展を支える支柱の一つとなり、両方の地域住民の生活向上に寄与している。

この国境貿易は、1983年の600万～700万ドル程度から出発して年々著増し、1992年には往復約33億ドルに拡大した⁽⁵⁾。これは、同年の中国と旧ソ連との貿易総額の半分に相当し、中国とシンガポール（中国の貿易相手国として第7位）との貿易総額に並ぶほど大きい取引額である（第3表参照）。旧ソ連側からみると、同年の対日本貿易（約37億ドル）に迫る規模ということになる。

黒竜江省が最大の国境貿易当事者であり、1992年には16～17億ドルの国境貿易取引を実現した⁽⁶⁾。つまり、同年における中国の国境貿易総額の半分以上を占めたわけである。黒竜江省の対外貿易総額のうち約75%が国境貿易で占められ、同省にとってロシアとの貿易がもつ役割はきわめて大きい。

基本的にバーター取引である国境貿易は、伝統的にスイス・フラン建てで取引されている。黒竜江省の国境貿易の急増ぶりをみてみると、1988年には1億9,600万フランであったのが、1991年には10億7,000万フランに拡大、1992年には21億フランと対前年比倍増、1993年には30億フランの大台に達する見込みである⁽⁷⁾。

吉林省とロシア極東地方との経済関係も活発化している。1990年12月に吉林省と沿海地方との間で結ばれた無期限の友好協力協定がとりわけ重要な意味をもつが、同協定では経済交流を中心にあらゆる分野における交流を促進することがうたわれている。海への出口の確保を宿願とする吉林省が沿海地方のザルビノ港を長期借用する話がまとまり、吉林省内部からザルビノ港までの新鉄道建設工事が始まっている。

ロシア極東地方側の貿易統計が近年少しずつ明らかにされているが、まだまだ不完全である。ロシア科学アカデミー極東支部経済研究所（ハバロフスク市所在）のA. G. イワンチコフ氏が執筆した論文のなかで用いられた1992年の相手国別貿易高を示すと、第9表の通りである⁽⁸⁾。極東地方の貿易相手国としては、中国、日本および韓国が圧倒的地歩を占めており、とりわけ、中国が最大の貿易相手国に浮上している。しかしながら、1992年の対中国貿易総額が約9.8億ドルというのは、黒竜江省一省の国境貿易が約16億ドルと発表されているのと比べ、あまりに小さい。

中国政府の全方位経済開放政策がいわゆる辺境地区にも及び、折から東北アジアの国際政治環境が基本的に好転している事情が、国境貿易の飛躍的発展を促す基本的条件となっているわけである。しかし、より重要なのは、国境貿易の商品構造がきわめて相互補完的である点である。旧ソ連・ロシア側の主要供給品目は、木材、鋼材、化学肥料、セメント、板ガラス、農業機械、建設機械、自動車、釘、家具、海産品などである（第10表参照）。一方、中国側からは、大豆、食肉、肉缶詰、果物などの食料品、縫製品およびメリヤス製品、下着類、スポーツシューズ、魔法ピンなどが輸出され、人気を博している。しかしながら、中国製の一部衣料品は品質があまりに粗末であり、近年厳しく批判され、中国側が反省と対策を迫られている。

長かった対立と緊張の時代が去り、長大な国境線が多くの地点で開放され、国境貿易がめざましい発展をとげていることは、地域間経済交流の活発化を促し、合弁事業の進展、中国東北三省からロシア極東地方への労働力供給、両国協力をベースにする共同建設プロジェクトの具体化など多角的経済関係が形成される刺激剤となっている。

(第9表) ロシア極東地方の相手国別貿易高
(1992年)

	貿易総額		輸 出		輸 入	
	100万ドル	%	100万ドル	%	100万ドル	%
日 本	885.8	34.4	658.2	47.2	227.6	19.3
中 国	975.9	37.9	412.4	29.5	563.5	47.9
韓 国	238.3	9.3	92.5	6.6	145.8	12.4
米 国	86.4	3.4	43.4	3.1	43.0	3.7
ベトナム	41.8	1.6	38.7	2.8	3.1	0.3
北 朝 鮮	2.7	0.1	1.7	0.1	1.0	0.09
シンガポール	21.2	0.8	0.9	0.06	20.3	1.7
オーストリア	11.2	0.4	—	—	11.2	1.0
ニュージーランド	30.2	1.2	10.7	0.8	19.5	1.7
タ イ	9.2	0.4	2.4	0.2	6.8	0.6
ド イ ツ	14.3	0.6	2.3	0.2	12.0	1.0
リベリア	15.1	0.6	—	—	15.1	1.3
そ の 他	240.0	9.3	132.6	9.5	107.4	9.1
合 計	2,572.1	100.0	1,395.8	100.0	1,176.3	100.0

(出所) A. G. イワンチコフ「ロシア極東の貿易・経済関係」、ロシア東欧経済研究所『調査月報』1993年7月号。

(原出所) 極東地域の各統計局、各地方自治体の各種資料に基づき作成。

(第10表) ロシア極東地方の対中国輸出商品構成

(構成比 %)

	1985	1988	1991
機械及び器具	—	—	9.0
木材製品	80.9	47.6	17.2
鉄鋼材料	8.1	10.4	7.0
非鉄金属	—	—	8.8
肥料	0.8	22.3	38.0
建設材料	5.7	5.0	0.6
魚類製品	1.8	5.8	14.3

(出所) ロシア科学アカデミー極東支部経済研究所、“Dalny Vostok Rossii Ekonomicheskyy Ezhegodnik”1991.

同研究所 P. A. ミナキル所長の東京での講演(1993.1. 20)によって補足。

それにもなって、中国と旧ソ連・ロシア間では新しい定期航空路や河川路が相次いで開設され、人的交流と物流の両方が著しく活発化している。黒竜江省北辺の黒河市と極東地方アムール州のブラゴベシチェンスク市は、現在、アムール川をはさんで中ロ間人的交流の最大の拠点になっているが、1992年一年間に延べ61万人の往来があった。中国でもロシアでも、地方分権化が時代のすう勢であり、国境貿易は相互利益の原則のもとで今後も増大するとみられる。

6. 東北アジア経済交流の柱に成長

中国とアジアは二国間では世界最長の国境線で隣接し、経済交流の可能性はもともと大きい。相互貿易の商品構造は既述の通りきわめて相互補完的である。政治の壁が経済交流の活発化を妨げてきたわけであるが、それが消滅した今日、両国間に本来的な経済のダイナミズムが甦って来たのであり、今後におけるいっそうの発展を期待して間違いなからう。

中国政府は、ソ連共産党とソ連邦の解体の影響に神経をとがらせてはいるものの、冷静に対処しており、良好な関係を損なうような言動は極力避けている。経済関係においては、全方位開放政策の一環として辺境地区の経済開放を位置づけ、積極的な政府支援を展開しているわけであるが、辺境地区開放の対象がロシアであることは、言うまでもない。

国境貿易が両国貿易を先導し、消費物資のバーター取引が地域住民のニーズに応え、人的交流と物流が著しく拡大、両国にとって後発的地域である中国東北地方とロシア極東地方の地域経済発展に寄与しているのは高く評価できる。この肯定的ファクターは地方分権の趨勢のもとで将来さらにその役割を高め、相互貿易の発展を促すとみられる。

中国と旧ソ連・ロシアとの経済関係は、既述の通り、著しく多様化している。そうした潮流のなかで、多国間の国際経済協力をも呼び込もうとする大型の中ロ共同建設プロジェクトが多数構想され、すでに着工したプロジェクトがあるのが注目される。中ロ経済協力が今後北東アジアにおいて本格化すると、東北地方と極東地方の地域経済の活性化に大きく貢献するのはもちろん、北東アジア全域における国際経済協力、つまり、環日本海経済協力の支柱の一つに成長するものと期待される。

中国吉林省の琿春市から長嶺子を経てロシア領内（沿海地方）に入り、クラスキノを経てザルビノ港にいたる中ロ協力の新鉄道（延長70キロ・メートル）建設は1995年の完成をめざしている。吉林省はこれによって海への出口を確保できるわけであるが、同省が沿海地方政府から長期使用権を獲得したザルビノ港については大規模な整備・拡充が必要である。

中国とロシアの間では、この鉄道建設のための「中・ロ・吉環株式会社」と港湾拡充・建設のための「ロシア・アジア港務株式会社」の二つの合併会社が設立されている⁽⁹⁾。中国政府が日本経済界に対して、このプロジェクトへの資金協力をすでに要請しているが⁽¹⁰⁾、今後、多国間国際協力の有望な対象プロジェクトとして浮上してこよう。

黒竜江省北辺の黒河市とロシア側アムール州の州都ブラゴベシチェンスク市間を流れて国境を画するアムール川（黒竜江）に自動車輸送用大鉄橋を建設し、両市周辺に一大自由経済特区を発展させるという大規模プロジェクトも、構想から具体化の段階に入り、計画の青写

真はでき上っている⁽¹¹⁾。中ロ国境を流れるアムール川とウースリー川には数千キロにわたって橋が一つもない。黒河・ブラゴベシチェンスク大橋（1,820メートル）の架設は、文字通り「歴史的」プロジェクトであり、しかも、中ロ共同の建設事業であることの意義は大きい。

中国側は北京政府が中央からの投資を決定している。一方、ロシア側では、モスクワの中央政府に余裕がなく、地元のアムール州にも資金はない。現在、鉄道建設を一任された株式会社「モスト」社（1992年11月に設立）が中国側と協力して、建設準備に当たっており、国際資金の導入も検討している。

黒河市から黒竜江省の章都ハルビンまでは鉄道が整備されている。一方、ブラゴンベシチェンスク市はシベリア幹線鉄道から120キロの位置にある。したがって、この大橋は、日本から中国を通過してシベリア鉄道経由ヨーロッパへの新しい交易ルートとして注目されることになる。

－ 注 －

- 1 国連欧州経済委員会『年次報告』＝ECE, “Economic Bulletin for Europe,” Volume 44 (1992), New York, 1992.
- 2 黒竜江省辺境経済貿易管理局における聴き取り調査（1993年9月9日、於ハルビン）。
- 3 中国対外経済貿易部国際貿易研究所における聴き取り調査（1993年9月6日、於北京）。
- 4 日本貿易振興会海外経済情報センター『ロシア極東における合弁企業の現状』、1993年7月。
- 5 3に同じ。
- 6 2に同じ。
- 7 2に同じ。
- 8 A.G. イワンチコフ「ロシア極東の貿易・経済関係」、ロシア東欧経済研究所『調査月報』1993年7月号。
- 9 特集「琿春・図們江・ザルビノ視察団報告」、日中東北開発協会『日中東北』第98号（1993年4月1日）。
- 10 同上。
- 11 ブラゴベシチェンスク所在「モスト」社における聴き取り調査（1993年8月31日、於ブラゴベシチェンスク）。

New Economic Relations Between China and the Former Soviet Union / Russia

Kazuo OGAWA

In this paper, new developments in Chinese-Russian economic relations are analyzed and perspectives on these relations in the near future are considered.

In the first section, a brief history of Chinese-Soviet economic relations since the 1950s is described. Chinese-Soviet economic relations developed rapidly in the 1950s, in the so-called 'honeymoon period.' At that time, the Soviet share in the total sum of China's foreign trade reached 50%. By the same token, China was also the greatest trading partner for the Soviet Union: the Chinese share in total foreign trade of the Soviet Union amounted to 20% in 1959.

In the 1960s, however, political confrontations between the two powers became acute, and the amount of foreign trade between them decreased dramatically. In 1970 the Soviet Union accounted for about 1% of China's total foreign trade and China accounted for only 0.2% of the total foreign trade of the Soviet Union.

It was not until 1982 that the mutual foreign trade between China and the Soviet Union increased significantly on an annual basis. In 1985, an agreement on foreign trade and payment for the 1986 - 1990 period was signed between the two countries. It was the first time since the beginning of the 1960s that such a long-term agreement was signed between them. Following these improvements in economic relations, overall relations between China and the Soviet Union were finally normalized when Gorbachev visited China in 1989.

In the second section, new developments in trade relations between the two countries during the period 1988 - 1992 are analyzed. In 1992, the amount of foreign trade between China and Russia reached 5.9 billion dollars, while the amount of mutual trade between Japan and Russia amounted to 3.5 billion dollars. For China, the importance of trade with Russia increased significantly, while its total amount of foreign trade with all countries of the world increased rapidly in recent years. In fact, in 1992, the republics of the former Soviet Union ranked fourth after Hongkong, Japan, and the United States as trading partner with China. For Russia and other republics of the former Soviet Union, only trade with China increased rapidly, while trade with the former COMECON countries decreased dramatically and trade with advanced as well as developing countries stagnated. This exceptional development in trade between China and the former Soviet Union / Russia was caused by the form of trade (barter) which did not require hard currency and also by the mutually supplementary nature of

traded commodities.

In the third section, the commodity structure of trade between China and the former Soviet Union / Russia is analyzed. It is stressed once again that the structure of traded commodities is mutually supplementary and this is the basic factor for expanding trade relations. The mutually supplementary nature was significant both in the 1950s and in recent years. China exports to Russia, among other commodities, food items such as meat, beans, corn, tea, and textiles and other consumer goods. In turn, Russia exports to China steel, non-ferrous metals, chemical fertilizers, cement, automobiles, airplanes, and other machines and equipments. It is worth noting that in 1991 and 1992, a trade surplus was recorded on the Soviet side. One of the reasons why the Russian exports grew more rapidly is the fact that, on the one hand, in Russia (particularly in its Far Eastern regions), a stock of unused steel and other materials piled up due to the conversion program; and on the other hand, a construction boom is continuing in China, creating a demand for steel. Still another reason lies in the continuing demand for Russian machines and equipments, the technical level of which is suited to the level of development of Chinese industry. Moreover, some Chinese managers prefer Russian machines because they have used Russian-made units since the 1950s.

In the fourth section, recent developments in joint ventures between the two countries are described. In particular, joint ventures organized in Russian territory have developed rapidly. The number of joint ventures established with Chinese capital is double the number of those organized with Japanese capital. Chinese joint ventures are concentrated in the Russian Far East, especially, in Primorsky krai, Amur, and Khabalovsk oblast'. Chinese enterprises accounted for 30% of the total number of joint ventures registered in the Russian Far East as of the end of 1992, although in terms of the amount of capital invested, those owned by the United States and Japan were more significant than those owned by China. A majority of Chinese joint ventures in this region are engaged in the trade of Chinese consumer goods with natural resources in the Russian Far East.

In the fifth section, developments of frontier trade between the two countries are analyzed. This frontier trade includes trade between the Russian Far East and three provinces in the northeastern area of China, and trade between Kazakhstan and Sinkiang Uighur province. In 1992, frontier trade accounted for half of the trade between the two countries. In turn, Amur province of China accounted for half of the frontier trade. The development of frontier trade has been accelerated by the open economic policy of the Chinese government and by the improvement in the political environment in this region of Asia. In addition, a more important reason for this development lies in the mutually supplementary nature of frontier trade.

In the final section, the development of bilateral trade between the two countries is looked at from the perspective of multilateral economic relations in the northeast Asia. The length of border between China and Russia is the longest among borders between any two countries in the world. We can say that the potential for economic relations between China and Russia has been significant. Moreover, the commodity structure of traded goods is mutually supplementary. Until recently, the political barrier between these two countries had hindered economic relations, and after the demise of this barrier, economic relations naturally regained impetus. We can confidently predict a further development in the future. If this comes to pass, then we can also expect that economic cooperation between these two countries will not only contribute to the activation of the northeastern region of China and the Russian Far East, but will also become one of the pillars to support international economic cooperation in northeast Asia.